

○議長（長澤健君）

続いて通告２番　２番　樋口正訓君の一般質問を行います。

２番　樋口正訓君。

○２番議員（樋口正訓君）

２番樋口です。質問に先立ちまして、新型コロナウイルス感染症は、いまだ衰えることなく依然猛威を振るっていますが、１日も早く以前のような生活が取り戻せるように願いたいと思います。

質問に入ります。はじめに森林環境整備についてです。９月の定例会におきまして、平林地区にある町有林の伐採事業案が可決されました。私はその際、伐採された後の森林整備の方法について質問をいたしましたところ、質問に対し当局は、継続的に植樹をすることで、森林環境の再生を図りたいとの回答でした。平林の町有林の詳細については、約０．７ヘクタールある人工林で、樹種はスギ、ヒノキ、カラマツ、アカマツなどの比較的成長の早い建築用途に適した針葉樹で、材齢は約５４年経過していると伺っています。一般に柱材は、３０年から５０年が収穫の年齢であり、すでに適齢であると考えられます。貴重な資源であると同時に、町の財産でもある町有林についての質問です。

はじめに、町有林伐採に伴い木材等の活用方法を伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長　遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。今回町有林の伐採を行います平林字大久保平の桜池北側の町有林につきましては、昨年度収穫量調査を行い、材積及び材質の調査を実施したところであります。この調査結果では、樹種は主にスギやヒノキですが、幹の太さの割に樹高が高く全体的に細い木であり、製材をしてみたところ、枝打ちなどの手入れをしていなかったこともあり、節が多く良質なものではありませんでした。

こうしたことから先般、収穫伐採工事及び売林等業務委託契約を締結したところであります。

○議長（長澤健君）

樋口正訓君。

○２番議員（樋口正訓君）

今後はですね、可能な限り、新庁舎の木質化などに町産材の活用を検討をお願いしたいと思います。

次に、戦後の造林地が収穫期を迎えていますが、森林の持つ多面的機能及び水源の涵養や災害防止、二酸化炭素の削減など豊かな水の恩恵と心に響く景観形成にも貢献しているものと認識しております。今後の森林環境の整備について考え

ると、郡内では森林面積の多い西桂町の例を挙げると、人工林の整備状況診断を定期的に行い、森林を守るような取り組み実施していると伺っています。

さて質問です。森林環境の保全を重視した継続的な森林整備の取り組みについての町の考えを伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまの継続的な森林整備の取り組みについてお答えいたします。今回、伐採をします町有林につきましては、皆伐を予定しているため、伐採後は植林を行う必要があります。植林につきましては、明年5月に本町で開催予定であります、県民緑化まつりの植樹会場として準備を進めているところであります。また、民有林につきましては、平成31年4月に施行された森林経営管理制度に基づきまして、昨年度から森林環境譲与税を財源として間伐等の手入れがされていない人工林を対象に森林整備に向けて取り組んでいるところであります。

なお、当町の対象となる森林面積は約2千ヘクタールに及ぶことから、継続的な森林整備に取り組んで参りたいと考え、本年度から全体計画の策定に着手したところであります。

○議長（長澤健君）

樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

再質問ですが、森林には動植物が生息して生態系がつくられて、私たちは多くの恩恵を受けています。例えば平林地区の町有林では、隣接する桜池周辺にモミジなどの広葉樹が多く、生き物が住みやすい環境がすでにつくられています。このようなことから、今後の森林整備の方法として、人間と動植物とが共生できるような里山的な風景をつくりだしていきたいと考えますが、そのような考えはあるでしょうか伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまの質問で、人間と動物が共存できるようなところということでお答えいたします。明年度開催予定であります、県民緑化まつりで植樹をする町有林ですけれども、桜池と隣接をしていることから、樹種は増穂21世紀の森づくりの会会員で県林政職員OBの方の意見を参考にいたしまして、イロハモミジ、イタヤカエデ、ヤマザクラ、ヤマボウシ、コブシといった広葉樹を選定し、災害に強い、環境保全を重視した森林を造成することを目的に、人間と動物とが共生できる里山づくりに取り組んで参りたいと考えております。

○議長（長澤健君）

樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

再質問です。民有林の整備についても、近年高齢化や担い手不足による森林の公益的機能の低下が懸念されている現状ですが、町有林と同じく里山的な風景を創設していきたいと考えますが、町の考えはいかがでしょうか。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまの民有林の整備についてお答えいたします。町では森林経営管理制度に基づき、全体計画を策定後、順次対象地区の森林所有者に今後の森林の経営や管理の意向を確認して参ります。森林所有者が高齢化や担い手不足などを理由に自分で行うことが困難な場合は、森林所有者にかわって町や林業事業体が管理等を行うこととなります。以上です。

○議長（長澤健君）

樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

共生できるような環境づくりをよろしくお願いいたします。続いて2番に移ります。里山を活かした地域振興について伺います。

里山は都会に住む人々にとって魅力あふれる風景であり、近年は見る観光から、体験を重視するスタイルに変わりつつある中で、このツーリズムを活用すると、平林地区の例では、里山の風景豊かな棚田の農業体験などに取り組んでいます。コロナ感染症収束に向けて、過疎化の進む里山に賑わいを取り戻そうではありませんか。

そこで質問です。里山の特徴を活かした田舎暮らし体験を行うなど、里山を観光資源につなげた地域振興策について、町の考えを伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。新型コロナウイルス感染拡大を機に、都市部から地方への移住に関心を持つ人が増えています。また、テレワークが普及し、住む場所や働き方を変えろという動きも広まっていることから、今後は田舎暮らしの需要が高まっていくものと考えております。里山は、景観そのものが観光資源になり得ることから、棚田や農業体験を通じて魅力のある地域振興策を検討しているところであります。以上です。

○議長（長澤健君）

樋口正訓君。

○2 番議員（樋口正訓君）

コロナ禍においてのリモートワークなど、新しい生活様式に変わりつつある現状を捉えて、今後も農業体験の継続と新たに桜池周辺の森林の枝打ち作業体験や間伐、薪割り、炭焼きなどの林業体験を加えて、高齢化や過疎化による担い手不足の解消にもつなげていきたいと思います。

再質問です。体験によっては1日では終わらないプログラムもあるため、宿泊等滞在機能を兼ね備えた施設の整備が必要ではないでしょうか。施設は雄大な富士や甲府盆地の夜景などが楽しめる、地域の特徴を活かした施設が求められ、場所については西小の跡地を活用して整備をしたいと思いますが、そのような考えは町にあるでしょうか伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。旧増穂西小学校の校舎解体後の活用策は、平林地区の皆さまと協議をした結果、地域振興策として、その跡地に農村文化農業体験宿泊交流施設の整備を検討しているところであります。これは平林活性化組合の農業体験オーナー制度の利用者や増穂登り窯の陶芸窯の火入れなどで、これまで日帰りとなっていた県外からの利用者が、平林に滞在できるよう宿泊交流施設を確保することが目的であります。以上です。

○議長（長澤健君）

樋口正訓君。

○2 番議員（樋口正訓君）

建物につきましては、集落の景観に配慮された昔話に出てくるような合掌造り風な建物が似合うと思いますが、人情あふれる地域の人との語らいの場でもありたい。近くにある交流の里みさき耕舎との活用で、食事のおもてなしは季節の里山料理、他には、新聞でも掲載されたところの手づくりのみさき弁当の提供などで取り組みを進める上でも、今後みさき耕舎との連携が不可欠ではないでしょうか。町の考えを伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまの、みさき耕舎との連携につきましてお答えいたします。現在検討しております、この農村文化農業体験宿泊交流施設を整備するにあたりまして、みさき耕舎との連携は必要不可欠なものと考えております。今後の運営方法につきまして、平林区はもとより、みさき耕舎を運営しております平林活性化組合と協

議をした上で運営を行って参りたいと考えております。

○議長（長澤健君）

樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

よろしくお願いいたします。施設が整備されると同時に、指導者の育成も必要であるかと思われます。魅力ある観光資源となる体験プログラムの作り方や、体験指導の方法など、地域の人を中心に、今後の担い手となる人の意見や各種体験の案内役などの養成を必要としたいと思いますが、町の考えを伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。この農村文化農業体験宿泊交流施設を整備することによりまして、この施設の管理運営や新たな体験制度をつくることにつながっていくと思っておりますので、地域の担い手や案内役など、新たな雇用が生まれてくるものと考えております。以上です。

○議長（長澤健君）

樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

連携をよろしくお願いいたします。

10月の中頃、千葉での議員研修の翌日に有志3名で、友好都市である茨城県の大洗町を訪ねました。平日にもかかわらず、港の市場には新鮮な魚を求める観光客で賑わっていました。私たちも磯の香りの海産物の味を楽しんでいましたが、大洗の市場の人に伺いました。「憧れは穏やかな山の風景や田舎暮らしが夢である。」と答えてくれました。今後は町ぐるみで友好の絆を深めていきたいと思ひ質問です。

再質問ですが、富士川での田舎暮らし、大洗では海辺の漁師体験など、互いの体験交流で友好を深め、次世代につなげていくような取り組みを考えているでしょうか、町の考えを伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまの大洗町との取組みにつきましてのご質問にお答えいたします。令和2年2月に友好都市となりました大洗町と、お互いの町の特徴を活かした体験による交流は、大変意義あるものだと考えております。そのためには、継続的に実施可能な体験プログラムや、里山地域の皆さまを中心とした体験指導とプログラムを実施することができる人材が必要であると考えます。今後は、里山地域の皆

さまのご意見を伺うとともに、両町の農林水産や観光の担当者及び観光協会と連携をしまして、住民ニーズの把握や実施可能な体験プログラムの洗い出しなど、実現に向けた協議を進めて参りたいと。考えております。

○議長（長澤健君）

2 番 樋口正訓君。

○2 番議員（樋口正訓君）

早期実現に向けて、関係機関の積極的な対応を期待しております。

終わりに、平林集落までは増穂インターから20分程度。道路状況もよく、里山といえども、決して不自由は感じさせない平林地区に、アイデアと工夫を活かした観光資源の活用で、都会にいながらも富士川町の里山を思い出させてくれるような取組みにしていきたいと考えています。中部横断道路の開通も間近、増穂インターを利用した首都圏からの観光客にも期待をしています。ほかにも穂積地区では、特産のゆずのブランド化や新商品の開発などを盛んに手がけ、今は地域ぐるみで特産のゆずの収穫と出荷の最盛期を迎えています。さらに、山ひとつ越えた大柳川溪谷では、四季を通じての景色や郷土料理の「みみ」などがあり、いずれも里山の魅力満載です。

今後も富士川町の自然や観光資源を、さまざまなチャンネルで人的交流を図り、魅力あふれる一流の里山づくりを目指した取組みにさらなる行政の支援をお願いしたいと思います。

以上で私の一般質問を終わります。

○議長（長澤健君）

以上で通告2番 2番 樋口正訓君の一般質問を終わります。